

「地域コミュニティ形成事業」住民懇談会「といかん本音トーク」 報告書まとめ

実施日時	令和4年1月26日(水)	①10:20~11:35 9人 ②13:00~14:45 5人 ③15:00~16:55 3人(うち前回継続2人)
実施場所	問寒別生涯学習センター	

【意見等】

Q昔やっていた地域の楽しみごとは?(身近な地域活動の象徴としてイベントをイメージ)

- ・地域の楽しみごとのイベントが担い手不足でできなくなっている
- ・盆踊りも10年後には継続は難しいだろう

Q問寒別の宝、おすすめは?

- ・困った時に助けてくれる人がいる
- ・団結力が強い(農家、地域、イベント)
- ・みんなで分け合う、助け合う雰囲気

Q地域と行政で担えなくなっている地域活動の空白をどう埋めていくか?

- ・外から若者に移住してもらって担い手になってもらう  
→そのために、仕事と住むところ、地域での暮らし方を教えてくれる周囲の人が必要
- ・昔と同じことはできないので、取捨選択と担い手に見合った事業内容の見極め  
→あれもこれもではなく、「あれかこれ」。やめずに持続可能な方向性を考える
- ・地域の若者が3分の1でも残れるような雇用の場創出(林業、建設業)
- ・地域が縮小していくことを前提に住民が暮らしやすいまちづくりのビジョン、計画策定
- ・地域の魅力をPRして応援団等関係人口創出、定住化
- ・特養等の施設入所の前に高齢者が皆で支え合い楽しみながら住める高齢者シェアハウス
- ・酪農を維持するには新陳代謝が必要  
→そのためには、現役を退いて地域(市街地)に残れる住まいが必要で、それが無く農家敷地に留まっ  
ていては後継者、新規就農等が困難で酪農産業の継続は厳しい

【次回に向けて】

- ・若者が実際に移住してくれるために必要なことを考える  
→就職先、住宅、地域のサポート受入態勢
- ・どう縮小していくのかを地域で考えていく
- ・高齢者や酪農業引退後の住まいは、どこにどんな機能があればよいか考える

【その他】

- ・今回の開催1回だけではなく、春までに後2回くらいは開催しないとダメだ
- ・町内会長なども高齢化でもう限界で何とかしないといけない
- ・迅速な救急搬送のため問寒別に救急車を配置してほしい
- ・チラシがマイナスな要素が多く、問寒別が好きで住んでいる者からすると、もっとポジティブなチラシにしてほしかった
- ・出張所は何でも屋さんだから、次来る人は大変だろう…

